

## 第3回ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ審査委員

委員長	水野 稔	(大阪大学名誉教授)
副委員長	増田 昇	(大阪府立大学大学院教授)
	池上 俊郎	(京都市立芸術大学教授)
	西村 伸也	(大阪市立大学大学院教授)
	山田 宏之	(大阪府立大学大学院教授)
	岡 絵理子	(関西大学准教授)
	鍋島美奈子	(大阪市立大学大学院准教授)

### 作品講評(都市デザイン部門)

#### 最優秀賞

流下する並木道	(株)竹中工務店 林 宏樹	増田副委員長
<p>大阪駅を中心としてエリア全体が大きく変化しつつあるなかで、取り残されつつあるダイヤモンド地区を対象に、漏斗型の構造体による並木道と地下街とのネットワーク形成を目指したものであり、広大な地下街からなる大阪の都市構造への挑戦的な提案である。上下が開いて土で満たされた漏斗型の構造体に高低差を利用して地下部へと流下する並木を植栽し、その並木を囲い込むデッキスペースを設けることで、無機質な都市空間に立体的な変化を与え、地上から地下へのアクセスとともに木漏れ日や風を感じる心地良い都市の居場所を生み出そうとしている。漏斗に満たされた土は雨水を貯留し、その貯水機能によって地下空間全体を冷やすことを意図している。この流下する並木道は、大阪の西風を呼び込み、大阪都心部のクールラインとも呼べる南北に伸びた豊かな並木道、御堂筋へと繋がる風の通り道を形成しようとしているものであり、大阪クールネットワークの創造に繋がる提案である。</p>		

#### 優秀賞

Prologue to the Cool Network ～道×川の十字の軸づくり～ (代表) 関西学院大学 尾上 俊朗	岡委員
<p>街の軸、人の動きの軸である御堂筋と水と緑の軸である大川でつくられる十字で、都心に集中しているクールスポットをネットワークさせようとする提案です。御堂筋の歩道の上を走るサイクリングロード、屋根のある大川堤防上の散歩道、堤防下の木陰や人が溜まる空間の提案。これらは、大阪の都心を立体的に捉え、そのポテンシャルをさらに高めるヒントがちりばめられています。御堂筋の建物と歩道を貫いてつくられるサイクリングロードの、御堂筋の景観としての評価については議論となり、御堂筋の風格を高める景観づくりとして、もう一工夫できたのではないかと意見も出ました。しかし、住む人も働く人も含めた都市生活者のライフスタイル提案とともに、今後の大阪の都市を考える上で意義のあるデザイン提案として、高く評価できるとして審査員の意見が一致しました。</p>	

#### 審査員特別賞

温故知新の都市デザイン (代表) 大阪大学大学院 村下 雄司	池上委員
<p>人為的構成である都市のヒートアイランド現象解決に向けて、幅広い仮説と有効な解決策が要求される。“温故知新の都市デザイン”は、歴史都市として大阪に学び、ヒートアイランド脱却とエネルギー自立を図る“まち—かぜ—PV”によるクールネットワークの構築を探る大胆な仮説に基づく提案である。ヒートアイランド問題の根源を、都市蓄熱と排熱と考え、“ヒートアイランド対策はエネルギー消費削減を図る解決策である”と位置付けています。関連研究である“大阪市における太陽光発電賦存量評価”、“PV大規模設置による温熱環境評価”に基づき、建物壁面1/2PV化により大阪市電気エネルギー自立化が可能と提案する。昔から存在する大阪湾からの海風、街区に創る水路、壁面PVにより、都市の水平垂直方向に展開する複合的なクールネットワークを形成し、大阪の歴史の文脈・未来の都市像を探ろうとするものです。海風の展開・PV利用により微小気候が発生する状況など、大きな課題が残ります。しかし、急激に悪化する気候変動の状況下では、大胆な仮説を都市政策に展開できるように進めていく時代となりました。このような仮説により、幅広い知のネットワークが広がり新たな技術とともに社会実装されることを期待します。</p>	

## 第3回ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ審査委員

委員長 水野 稔 (大阪大学名誉教授)  
副委員長 増田 昇 (大阪府立大学大学院教授)  
池上 俊郎 (京都市立芸術大学教授)  
西村 伸也 (大阪市立大学大学院教授)  
山田 宏之 (大阪府立大学大学院教授)  
岡 絵理子 (関西大学准教授)  
鍋島美奈子 (大阪市立大学大学院准教授)

### 作品講評 (技術アイデア部門)

#### 優秀賞

クールスポット検索アプリ「納涼のすゝめ」 (代表) 大阪府立大学大学院 大城 有司	鍋島委員
提案された検索アプリを使って、ある場所から目的地までのルート検索をすると、「最短ルート」と「納涼ルート」を表示してくれる。「納涼ルート」は近くのクールスポットを巡りながら目的地まで行けるルートであり、まさにクールネットワークの提案である。アプリの機能として、地図上に自分で見つけたクールスポットをmyspotとして登録することや、市民団体などが企画する納涼イベントを表示することができるので、利用者が新たなクールネットワークを創っていくことも可能である。また、クールポンという近隣店舗で利用できるクーポンのような仕組みを提案している。このアプリを通じて、「アプリ管理者の大阪府」、「利用者」、「市民団体や近隣店舗」の3者間の双方向ネットワークが形成されるという意味からもクールネットワークの形成や利用促進に有効な提案として評価したい。	

#### 審査員特別賞

快適ソトワーク@クールスポット ～ソトワーク指数によるクールスポットの有効利用と低炭素型まちづくり～ (代表) 株式会社 竹中工務店 安藤 邦明	鍋島委員
「ソトワーク指数」というクールスポットの快適指数をリアルタイムに表示して、仕事やレジャーにもっとクールスポットを活用してもらおうという提案である。まず、審査員の大半は「ソトワーク指数」というネーミングに魅了された。クールスポット100選に選ばれたすべてのクールスポットで温湿度やグローブ温度などの環境要素と利用者数、利用時間をモニタリングし、大量のデータを収集、分析した結果、ソトワーク指数を決定するというプロセスが具体的かつ論理的に説明されている点はおおいに評価できる。惜しむらくは、大阪クールネットワークの創造にどのように寄与するか提案がなかったことであるが、提案されたシステムによってクールスポットの認知度や利用者数が増加すると予想され、クールスポットの活用方法についても新たな展開が期待できる。	